

令和7年度

第2回山梨県立美術館協議会資料

令和8年2月20日（金）開催

山梨県立美術館

資料目次

【参考資料】

山梨県立美術館協議会委員名簿	1
山梨県附属機関の設置に関する条例及び条例施行規則（抜粋）	2
組織図（美術館及び指定管理者）	6
山梨県立美術館の観覧者数の推移	8
美術館の利用者	11

【議事資料】

- (1) 報告事項 令和7年度事業報告について
令和8年度事業予定について

・ 美術館学芸課関係	13
・ 指定管理者関係	29

山梨県立美術館協議会委員名簿

任期: 令和6年10月1日～令和8年9月30日

氏名	役職	出身分野(勤務先等)		備考
高野 孫左エ門 <small>たかの まごさえもん</small>	株式会社吉字屋本店代表取締役社長	学識経験者		
向山 富士雄 <small>むこうやま ふじお</small>	南アルプス市立美術館長	学識経験者		
中野 宗夫 <small>なかの むねお</small>	山梨美術協会長	学識経験者		
堀内 麻実 <small>ほりうち まみ</small>	anlib株式会社 代表取締役	学識経験者		
和田 信太郎 <small>わだ しんたろう</small>	東京芸術大学大学院映像研究科助教	学識経験者		
野口 英一 <small>のぐち えいち</small>	山梨放送・山梨日日新聞社社長 (山梨県芸術文化協会会長)	学識経験者		
原田 由起彦 <small>はらだ ゆきひこ</small>	テレビ山梨代表取締役社長	学識経験者		
藤原 和昭 <small>ふじはら かずあき</small>	NHK甲府放送局局長	学識経験者		
仲田 道弘 <small>なかだ みちひろ</small>	公益社団法人やまなし観光推進機構理事長	学識経験者		
大木 貴之 <small>おおき たかゆき</small>	一般社団法人ワインツーリズム代表理事	学識経験者		
乙黒 理絵 <small>おとぐろ りえ</small>		公募		
三澤 伊織 <small>みさわ いおり</small>		公募		
石田 秀博 <small>いしだ ひでひろ</small>	山梨県市町村教育委員会連合会副会長	学校教育関係	(中央市教育長)	R7.5.7就任
内田 浩恵 <small>うちだ ひろえ</small>	山梨県公立小中学校長会代表	学校教育関係	(甲州市立玉宮小学校長)	
伊藤 裕之 <small>いとう ひろゆき</small>	山梨県高等学校長協会代表	学校教育関係	(白根高等学校長)	

○山梨県附属機関の設置に関する条例（抜粋）

（趣旨）

第一条 この条例は、法令又は他の条例に別に定めのあるものを除くほか、地方自治法（昭和二十二年法律第六十七号）第三百三十八条の四第三項に規定する附属機関に関し、必要な事項を定めるものとする。

（附属機関の設置及び担当事務）

第二条 執行機関の附属機関として、別表第一に掲げる機関を設置し、その担任する事務は、同表の担当事務欄に掲げるとおりとする。

2～4 略

（組織）

第四条 附属機関は、別表第一、別表第二、別表第三及び別表第四の委員の定数欄に掲げる数の委員で組織する。

2 委員は、別表第一、別表第二、別表第三及び別表第四の委員の要件欄に掲げる者のうちから、執行機関が任命し、又は委嘱する。

3 委員の任期は、別表第一、別表第二、別表第三及び別表第四の委員の任期欄に掲げるとおりとする。

（会長等）

第五条 附属機関に、執行機関の規則で定めるところにより、会長又は委員長（以下「会長」と総称する。）及び副会長又は副委員長（以下「副会長」と総称する。）を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選によりこれを定める。

3 会長は、会務を総理し、附属機関を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

5 副会長が置かれていない附属機関にあっては、会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第六条 附属機関の会議は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 会議は、執行機関の規則で定める場合を除くほか、委員の二分の一以上が出席しなければ、開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（委任）

第九条 この条例に定めるもののほか、附属機関の担当事務、組織及び運営等に関し必要な事項は、執行機関の規則で定める。

別表第一(第二条、第四条関係)

一 知事の附属機関

附属機関	担当事務	委員の 定数	委員の要件	委員の 任期
山梨県立美術館 協議会	博物館法(昭和二十六年法律第二百八十五号)第二十三条第二項の規定による山梨県立美術館の運営に関する事項の調査審議及び意見の具申に関する事務	十五人 以内	<ul style="list-style-type: none"> 一 学校教育の関係者 二 社会教育の関係者 三 家庭教育の向上に資する活動を行う者 四 学識経験のある者 	二年
山梨県立美術館 専門委員会	山梨県立美術館における資料の収集、保存及び展示並びにその実施する事業に関する調査審議に関する事務	七人 以内	<ul style="list-style-type: none"> 一 学識経験のある者 二 優れた識見を有する者 	二年

○山梨県附属機関の設置に関する条例施行規則（抜粋）

（趣旨）

第一条 この規則は、山梨県附属機関の設置に関する条例（昭和六十年山梨県条例第三号。以下「条例」という。）の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

（補欠の委員の任期）

第二条 委員に欠員を生じた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会長等）

第四条 条例第五条第一項の規定により、附属機関（次に掲げる附属機関を除く。）に会長を、次に掲げる附属機関に委員長を置く。

一～十 略

※上記で示す「次に掲げる一～十の附属機関」に美術館協議会は入っていないため、当協議会においては会長を置く。

2 条例第五条第一項の規定により副会長を置く附属機関及び当該附属機関に置かれる副会長の定数は、次の表のとおりとする。

※上記で示す「次の表」に美術館協議会はないため、当協議会においては副会長は置かない。

（定足数の特例）

第五条 条例第六条第二項の規則で定める場合は、次の表の附属機関欄に掲げる附属機関の会議について、同表の定足数欄に掲げる数の委員が出席しなければ開くことができない場合とする。

附属機関	定足数
山梨県立美術館協議会	過半数

（資料の提出等の要求）

第八条 附属機関は、その担任する事務を遂行するため必要があると認めるときは、関係行政機関の長に対して、資料の提出、意見の開陳、説明その他の必要な協力を求めることができる。

（意見の陳述）

第九条 関係行政機関の職員は、会長の許可を得て、附属機関の会議に出席し、審議事項に関して意見を述べることができる。

（庶務）

第十二条 附属機関の庶務は、別に定めるところにより、処理する。

(委任)

第十三条 この規則に定めるもののほか、附属機関の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が当該附属機関に諮って定める。

○博物館法（抜粋）

(博物館協議会)

第23条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第24条 博物館協議会の委員は、地方公共団体の設置する博物館にあつては当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会(地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和三十一年法律第百六十二号)第二十三条第一項の条例の定めるところにより地方公共団体の長が当該博物館の設置、管理及び廃止に関する事務を管理し、及び執行することとされている場合にあつては、当該地方公共団体の長)が、地方独立行政法人の設置する博物館にあつては当該地方独立行政法人の理事長がそれぞれ任命する。

第25条 博物館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、地方公共団体の設置する博物館にあつては当該博物館を設置する地方公共団体の条例で、地方独立行政法人の設置する博物館にあつては当該地方独立行政法人の規程でそれぞれ定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

美術館組織図(令和7年度)

令和7年7月1日現在

所属名	美術館		
	会計年度 任用職員	特別職 非常勤職員	計
正規職員 15 (兼5)	6	2	23 (兼5)

非 館長 青柳 正規

事 副館長 和光 達夫

非 デザイン
センター長 永井 一史

美術館附属
デザインセンター

兼 事 次長 天野 祥子

兼 事 次長 田原 典男

技 学芸幹 井澤 英理子 学芸部門の総括
日本中世・近世絵画

総務課

学芸課

デザイン課

兼 事 課長(事務取扱) 天野 祥子 課の総括
美術館協議会

技 課長 平林 彰 課の総括
日本近世・近代絵画

事 課長 矢野 里江 課の総括

職名	氏名	主たる業務
事 リーダー 副主幹	武田 強	担当の総括 予算管理
事 主任	笠井 愛	会計・経理 旅費・物品
会計年度 任用職員	小尾 祐子	職員給与等 共済組合、互助会

学芸担当			
職名	氏名	主たる業務	
技 リーダー 学芸員	高野 早代子	担当の総括 県関係作家、保存	
技 学芸員	森川 もなみ	西洋・日本近代美術	
技 学芸員	下東 佳那	日本現代美術・現代洋画	
技 学芸員	森 卓也	現代美術	
会計年度 任用職員	雨宮 千鶴	学芸事務	
会計年度 任用職員	井上 智恵子	学芸事務	
会計年度 任用職員	回木 茜	学芸事務	

普及担当			
職名	氏名	主たる業務	
技 リーダー 学芸員	太田 智子	担当の総括 現代美術、西洋近代絵画	
技 主査	内藤 雅士	美術館教育	
技 主任	遠藤 和香	美術館教育	
会計年度 任用職員	小澤 俊朗	協力員指導	

美術館協力会		
職名	氏名	主たる業務
協力会 職員	小杉 佳子	協力会経理・ミュージアムショップの運営
協力会 職員	矢崎 理江	協力会経理・ミュージアムショップの運営

職名	氏名	主たる業務
事 副主幹	遠藤 恵理子	デザインセンターの運営
事 主事	荻原 拓真	デザインセンターの運営
会計年度 任用職員	廣田 陽香理	デザインセンターの運営
兼 研 主任研究員	串田 賢一	デザインセンターの運営 補助
兼 技 副主査	中野 賢治	デザインセンターの運営 補助
兼 事 主任	武川 裕一郎	デザインセンターの運営 補助

令和7年度コレクション展観覧者数

月	開館日数	観覧者数
4	27	4,258
5	27	8,711
6	25	4,994
7	27	5,716
8	28	9,631
9	25	5,992
10	27	9,227
11	26	12,811
12	22	2,775
1	26	4,258
2		
3		
計	260	68,373

令和6年度コレクション観覧者数

月	開館日数	観覧者数
4	26	4,647
5	27	7,146
6	26	5,864
7	26	4,942
8	28	7,123
9	25	6,101
10	27	6,187
11	26	8,355
12	23	3,675
1	26	7,357
2	23	4,166
3	20	3,594
年度計	303	69,157

1月まで計	260	61,397
-------	-----	--------

前年同期比 111.4%

特別展 (R8年1月末まで)

展覧会名	開催日数	観覧者数
皇室の美と山梨 ～皇居三の丸尚蔵館 の名品～	33	13,132
ポップ・アート 時代を変えた4人	39	16,148
生誕100年 山下清展 —百年目の大回想	57	51,996
「日本画」の挑戦者たち それぞれの葛藤と探求	44	7,368
計	173	88,644

特別展等 (R6年度)

展覧会名	開催日数	観覧者数
ベル・エポック —美しき時代	51	13,897
コレクション企画展「富 岡鉄斎」展	33	8,484
山梨モダン1912～1945 大正・昭和前期に華ひ らいた山梨美術	45	7,086
超絶技巧、未来へ！ 明治工芸とそのDNA	61	27,753
ドキュメント「アートキャ ンプ白州」—記録映像で 蘇る夏1988～2010	26	2,586
計	216	59,806

山梨県立美術館の観覧者数の推移

周年	年度	開館日数	コレクション展	特別展等	観覧者数合計
1	S53	118	160,594	91,501	252,095
5	57	296	401,864	107,843	509,707
8	60	299	396,782	193,786	590,568
10	62	298	454,876	78,845	533,721
15	4	290	359,582	155,457	515,039
20	9	293	202,358	53,780	256,138
25	14	301	166,783	131,560	298,343
30	19	309	99,823	64,421	164,244
31	20	307	112,410	85,669	198,079
32	21	309	117,250	57,803	175,053
33	22	310	98,986	61,123	160,109
34	23	310	103,181	84,090	187,271
35	24	311	120,650	67,736	188,386
36	25	306	97,569	59,204	156,773
37	26	308	137,316	112,138	249,454
38	27	307	97,675	103,380	201,055
39	28	306	80,474	68,718	149,192
40	29	305	76,898	67,127	144,025
41	30	303	90,090	106,226	196,316
42	R1	280	76,546	120,458	197,004
43	R2	255	40,319	34,716	75,035
44	R3	273	52,096	58,138	110,234
45	R4	304	77,488	69,416	146,904
46	R5	304	79,048	56,640	135,688
47	R6	303	69,157	59,806	128,963
48	R7	260	68,373	88,644	157,017
計		14,073	10,156,056	4,316,469	14,472,525

1月末まで

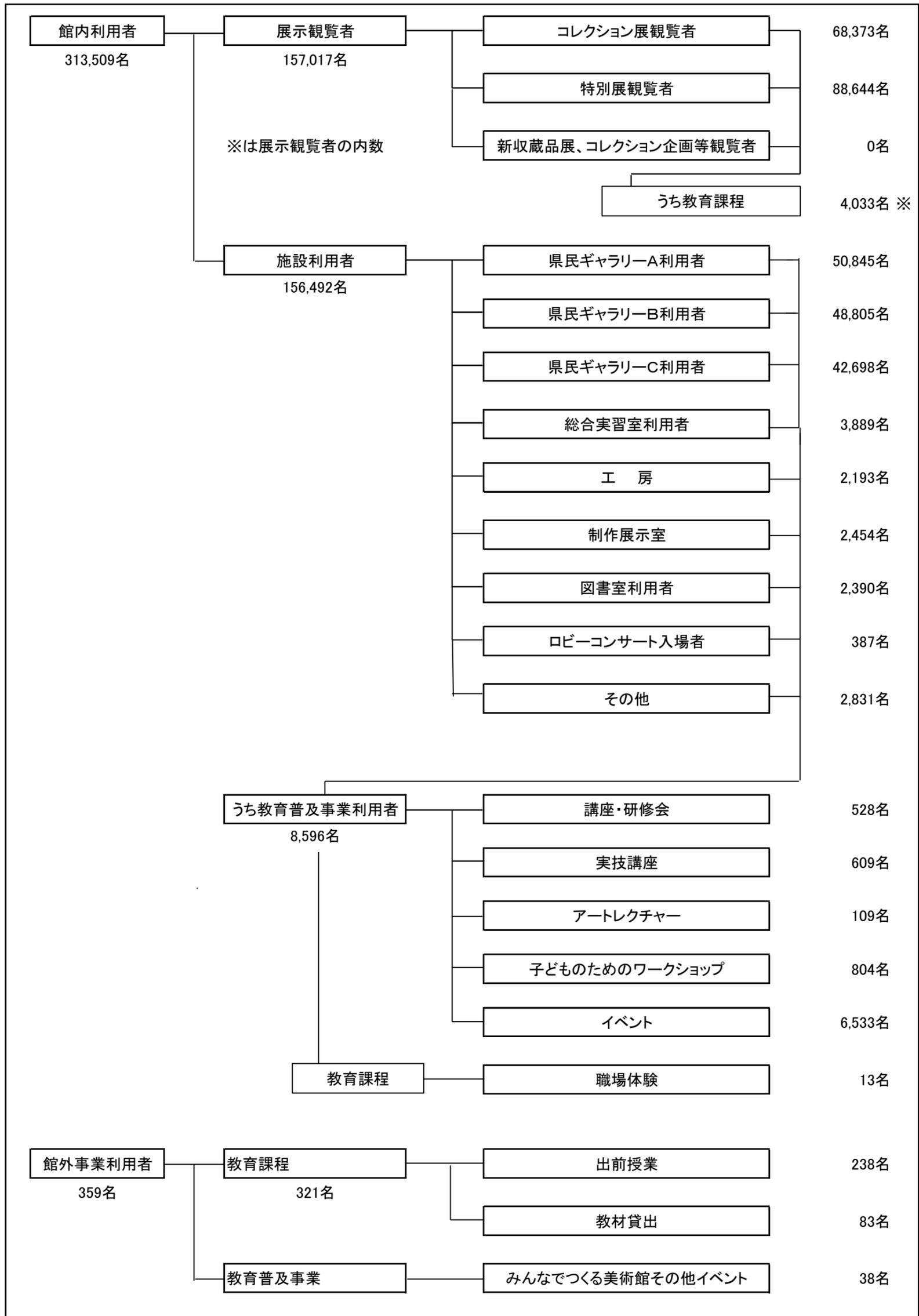
観覧者数の目標と実績

年度	展示種別・名称	目標	実績	達成率 %	
R7年度 1 実績末は	コレクション展	80,000	68,373	85.5	
	特別展	皇室の美と山梨～皇居三の丸尚蔵館の名品～	18,000	13,132	73.0
		ポップ・アート 時代を変えた4人	18,000	16,148	89.7
		生誕100年 山下清展 ー百年目の大回想	35,000	51,996	148.6
		日本画 それぞれの挑戦	9,000	7,368	81.9
	合計	160,000	157,017	98.1	
R6年度	コレクション展	87,559	69,157	79.0	
	特別展	ベル・エポック ー美しき時代	16,301	13,897	85.3
		山梨モダン1912～1945 大正・昭和前期に華ひらいた山梨美術	17,618	7,086	40.2
		超絶技巧、未来へ！ 明治工芸とそのDNA	18,638	27,753	148.9
		ドキュメント アートキャンプ白州 記録映像で甦る夏1988～2010	3,522	2,586	73.4
	【コレクション企画展】 ー没後100年ー富岡鉄斎 鉄斎と文人書画の優品	6,410	8,484	132.4	
	合計	150,048	128,963	85.9	
R5年度	コレクション展	84,600	79,048	93.4	
	特別展	山梨県立美術館コレクションREMIX	17,483	8,246	47.2
		ミレーと4人の現代作家たち	37,378	18,091	48.4
		テルマエ展 お風呂でつながる古代ローマと日本	33,844	16,431	48.5
		アーツ・アンド・クラフツとデザイン	16,695	13,872	83.1
合計	190,000	135,688	71.4		
R4年度	コレクション展	74,500	77,488	104.0	
	特別展	フランソワ・ポンポン展	22,919	21,199	92.5
		宮城県美術館所蔵 絵本原画の世界2022	14,046	20,260	144.2
		縄文ーJOMONー展	19,010	19,347	101.8
		米倉壽仁展	13,923	8,610	61.8
合計	144,398	146,904	101.7		

※目標人数は、指定管理者の掲げる業務計画目標人数

美術館における「利用者」の状況(令和7年度)

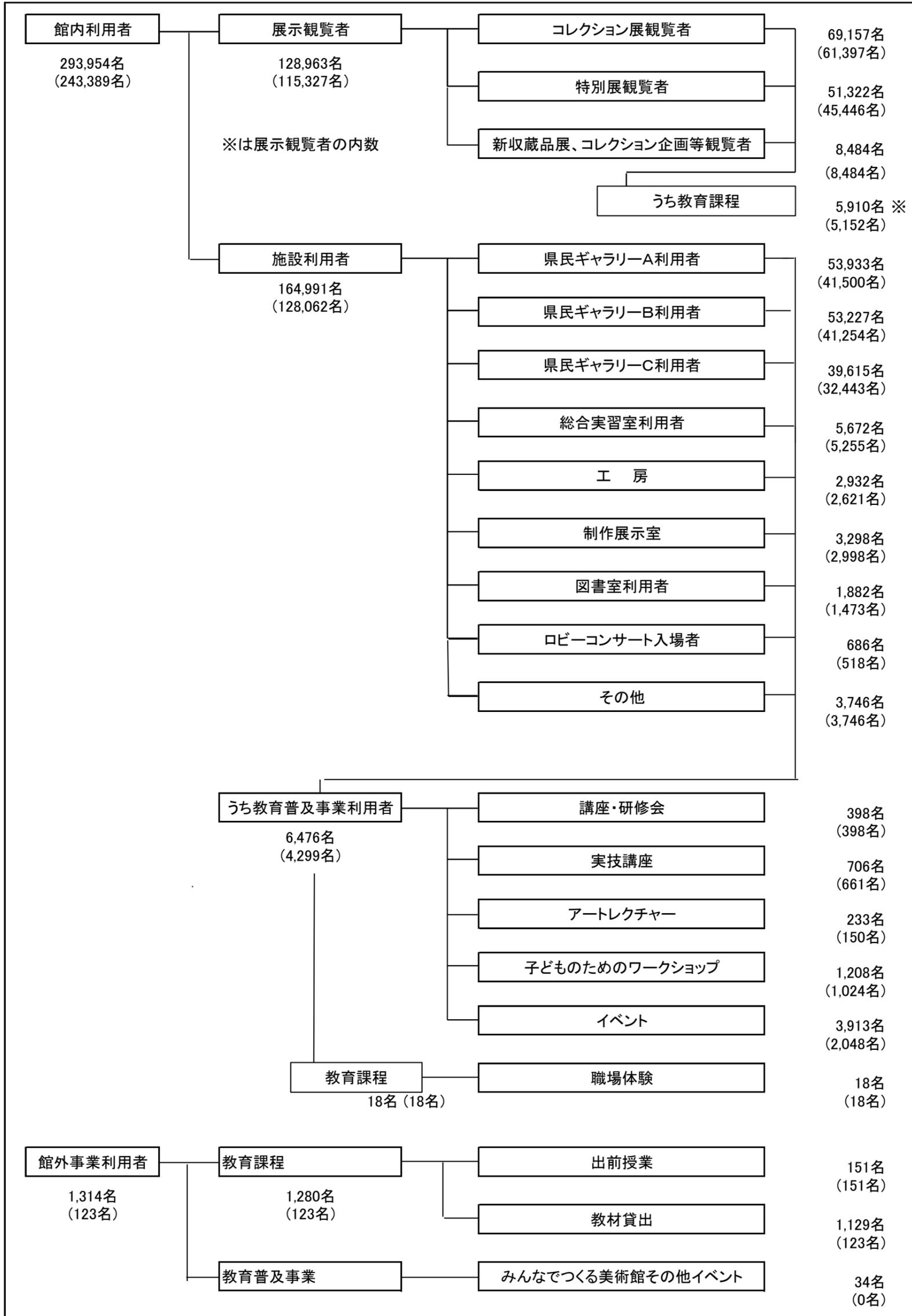
令和8年1月末までの実績



○美術館の利用者とは、美術館の施設、提供するサービスを利用した者及び美術館の事業・活動に参加したすべての対象者をいう。

美術館における「利用者」の状況(令和6年度)

() は令和7年1月末までの実績



○美術館の利用者とは、美術館の施設、提供するサービスを利用した者及び美術館の事業・活動に参加したすべての対象者をいう。

山梨県立美術館協議会

令和7年度事業報告

[学芸課]

美術館活動目標

山梨県総合計画において、県立美術館などの文化施設では、特色を十分に生かした企画展などの開催や教育普及事業の実施、展観環境及び資料保全環境の充実を図るなど、幼少期から本物の芸術・文化に触れる機会を提供することとしており、その実現のため、次のとおり3つの項目を定め、活動目標を掲げている。

【展示／見る】

【教育普及／学ぶ】

【付加価値・魅力／憩う】

【展示／見る】

幅広いジャンルでの質の高い「特別展」とともに、西洋美術、山梨ゆかりの美術、日本の近現代美術などの「コレクション（常設）展」の一層の充実を図る。

【コレクション展 [ミレー館]】

「ジャン＝フランソワ・ミレー(1814～1875) 生涯と作品」

「「自然」を描く画家たち バルビゾン派を中心に」

【春季】3月11日～6月8日

【夏季】6月24日～9月7日

文学館との連携：水彩画《鷺鳥を追う少女》等を展示

※ミレー没後150年を記念し、【夏季】から1年間、常時展示が難しい紙に描かれたミレー作品をテーマごとに展示。

【秋季】9月9日～12月14日

「種をまく人」を特集：版画、デッサンの《種をまく人》を油彩画とあわせて展示

※11月3日の開館記念日から、3の付く日はミレー館の写真撮影を可能に！

【冬季】12月16日～令和8年3月8日

「働く女性たち」を特集：農村でさまざまな仕事をする女性を描いた作品を展示



【コレクション展 [ミレー館]】

「毎月3のつく日はミレーの日」

これまで1月3日のみ可能だったミレー館での写真撮影を、毎月3のつく日(3日、13日、23日、30日、31日)にも可能とした。日を決めて実施することで、静かに鑑賞したいという声と、撮影したいという声の両方に応えたとともに、ミレーそのものへの注目を集めることも目的としている。撮影を目的とした来館者もあり、インセンティブの一つとして今後定着するものと考えられる。



『朝日新聞』に記事掲載(10月30日朝刊)



『山梨日日新聞』に記事掲載(11月1日朝刊)

【コレクション展 [テーマ展示室]】

【春季】 3月11日～6月22日

「花めぐりー春から初夏へ」

早春から初夏へかけて咲く花々が華やかに描かれた作品を展示

「萩原英雄と春への賛歌」

山梨を代表する萩原英雄という作家を自画像や取り巻く人々、初期作品によって改めて振り返りつつ、春を迎えて喜びに沸き立つ萩原自身の心情が反映された版画や短歌、俳句を紹介

「令和5・6年度新収蔵作品」



「花めぐりー春から初夏へ」会場風景



「萩原英雄と春への賛歌」会場風景

【コレクション展 [テーマ展示室]】

【夏季】 6月24日～9月7日

「夏の情景」

夏にちなんだ風景や風俗を表した作品を展示。

「戦後80年 戦争と日々」

戦後80年の今年、本展では、戦争を主題とした国内外の作家たちが苦悩のなかで制作した作品を中心に紹介。さらに戦時中に疎開地となった山梨で制作を続けた作家たちによる日常のひとコマや、変わらぬ緑の自然を描いた作品を展示。



「戦後80年 戦争と日々」会場風景



「戦争を考える美術展」記事に掲載
(『読売新聞』7月29日朝刊)

【コレクション展 [テーマ展示室]】

【秋季】 9月9日～12月14日

「秋の情景」「大正新版画(秋の景色)」「秋の実り」

「コレクションに見る20世紀の美術」「紙 その豊かな表現」

「銅版画の緻密な宇宙」

当館所蔵の20世紀のおもにヨーロッパの作家、そして彼らの影響を受けた梅原龍三郎ら日本の作家の作品を紹介。また19世紀に画家たちが取り組んだエッチング(腐食銅版画)をはじめ、日本の作家も含めた精密な銅版画作品を展示。



「コレクションに見る20世紀の美術」会場風景



「銅版画の緻密な宇宙」会場風景

【コレクション展 [テーマ展示室]】

【冬季】 12月16日～令和8年3月8日

「冬の情景」

冬にちなんだ風景や風俗を描いた作品

「具象と抽象のあわせ」

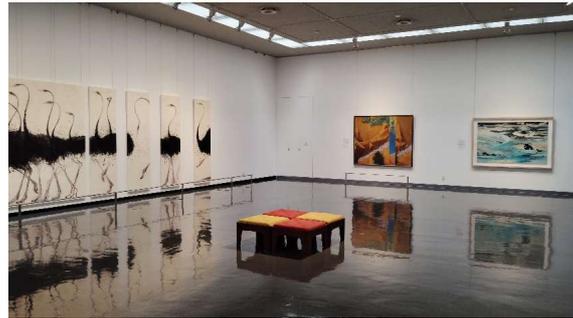
①室内・静物、②人物・動物、③風景の3つのジャンルごとに半具象・半抽象的な作品を紹介。

「1980年代以降の「日本画」」

特別展『日本画』の挑戦者たちに関連して、従来の「日本画」のジャンルを超えた多様な表現の広がりを取り上げる。



「具象と抽象のあわせ」会場風景



「1980年代以降の「日本画」」会場風景

【コレクション展 [萩原英雄記念室]】

【春季】

※特別展「皇室の美と山梨」会場のため休室

【夏季】6月24日～9月7日

「萩原英雄のいろいろなカタチ」

【秋季】9月9日～12月14日

「萩原英雄の版画の始まり」

「抽象のイメージ 版画と油彩画」

【冬季】12月16日～令和8年3月8日

「新聞を彫る」

「雑誌を貼る」

「多彩な木版表現」



「新聞を彫る」「雑誌を貼る」会場風景

【特別展】

皇室の美と山梨 皇居三の丸尚蔵館の名品

令和7年4月26日(土)～6月1日(日)

- 皇居三の丸尚蔵館の収蔵品から山梨ゆかりの画家の絵画や県産の工芸品を皇室の名品とともに紹介。関連する当館収蔵品もあわせて展示。
- 共催のテレビ山梨と連携してCMをはじめ、広報物を強化して幅広く広報。
- 入館者は1万人を越えた(13,132人)。
- 「山梨で皇室の美術作品を見ることができて満足」「皇室と山梨の関わりというテーマが興味深い」「歴史を学びながら作品にふれられた。」など、アンケートでは高評価を得た(満足度:98%)。



会場風景

【特別展】

ポップ・アート 時代を変えた4人

令和7年7月12日(土)～8月24日(日)

- 日本初公開となるホセリス・ルペレス氏所蔵の作品約120点をとおしてポップ・アートを紹介。戦後アメリカ美術を大きく取り扱う当館では初めての機会。
- CMなどを制作し、幅広いデモグラフィックへの広報活動。
- 複数回のギャラリートークや、ワークショップなどを設け、様々な視点からポップ・アートに親しむ工夫の事業展開。
- 「4人の個性が面白かった」「作者ごとに分れていて見やすい」「山梨で見られるのは感激」などのアンケートでは高評価を得た(満足度:92%)。



会場風景

【特別展】

生誕100年 山下清展 百年の大回想

令和7年9月20日(土)～11月24日(月・振休)

- 貼絵を中心とした代表作約190点と遺品や関連資料を展示し、芸術家・山下清の真の姿を紹介。
- 広報印刷物は分かりやすく視覚に訴えるものとし、共催の山梨日日新聞社との連携を強化して幅広く広報。
- 遺族による講演会、「長岡の花火」をテーマにした映画会を開催。
- 人気声優による音声ガイドの導入。
- 5万人を超える観覧者が来館して好評を博し、芸術家としての山下清像を多くの人に伝えることができた。



《長岡の花火》 山下清作品管理事務所蔵



最終日の様子

【特別展】

「日本画」の挑戦者たち それぞれの葛藤と探求

令和7年12月6日(土)～令和8年2月1日(日)

- 山梨ゆかりの画家を、明治から昭和までの日本画の動向の中に位置づけ、評価を高めることを目指した。当館のコレクションの活用とアピールも実現。
- 広範な層の関心を得るため、横山大観、東山魁夷など著名な日本画家も紹介。
- 作家解説は見だしのような短文と画家の言葉で紹介。作品制作時の年齢を表記。
- 日曜美術館や新聞全国紙、美術雑誌で紹介。アンケートやSNSでは、「日本画の魅力を知った」「日本画の流れがわかった」「山梨の画家の層の厚さに驚いた」と高評価で、図録も完売した。展覧会の開催意義を果たすことができた。



会場風景

【令和8年度 特別展】

「カルン・タカール・コレクション インド更紗 世界をめぐる物語」

令和8年4月25日(土)～6月21日(日)

「中西夏之 緩やかにみつめるためにいつまでも佇む、装置」

令和8年7月4日(土)～8月23日(日)

「ウジェーヌ・ブーダン展」

令和8年9月12日(土)～11月3日(火・祝)

「ヨゼフ・ラダ展」

令和8年11月20日(金)～令和9年1月17日(日)

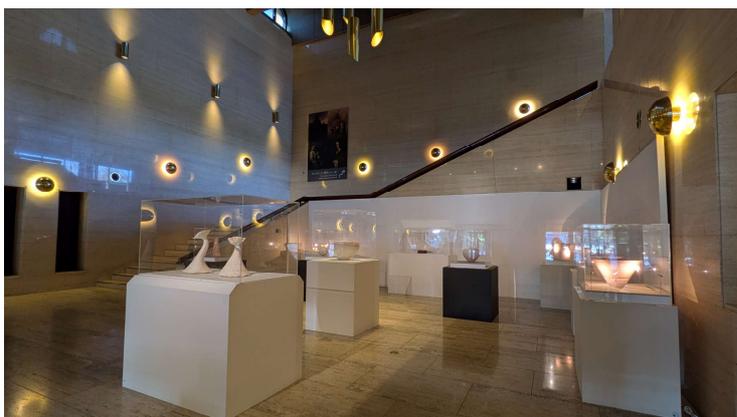
(※「2026年度特別展のご案内」参照)

【キュレーターズアイ】

「星野友幸展」

令和7年11月18日(火)～令和8年2月1日(日)

- 山梨県にゆかりのある主に若手の作家をエントランスのギャラリー・エコーで紹介する展覧会。今年度は甲府市出身の陶芸家・星野友幸を取り上げた。
- 独特の淡いピンク色を作品の特色とするため、色を合わせたチランを作成。
- 朝日新聞、山梨日日新聞などに記事掲載。
- 会場に作家へのメッセージノートを設置、多くのコメントが寄せられた。
- 会社勤めを経て陶芸家に転身し、磁器と陶器の両方を生み出す実力ある作家を、広く知っていただく機会となった。



『朝日新聞』に記事掲載(12月5日朝刊)

【付加価値・魅力／憩う】

本来の美術館機能に加え、さまざまな付加価値を充実させ、より魅力ある「憩いの場」の創造と提供を行い、文化観光の拠点をめざす。

[文化庁支援事業]

【文化観光拠点施設を中核とした地域における文化観光推進事業】

※令和2～6年度実施事業を継続

文化資源デジタル化・コンテンツ開発事業



ミレー作品紹介
4Kプロジェクター



バルビゾン村紹介
タブレット

作品鑑賞プログラム魅力増進事業



対話型鑑賞の研修
作品を前にしての実践

【教育普及／学ぶ】

生涯学習の進展や教育課程における総合学習の充実化にともない、より多様な学習機会の提供を行う。

～学校教育との連携～ スクールプログラム

- ・県内外の学校、教育・福祉施設の団体来館者に対して、要望、対象に合わせた「オリエンテーション」「対話型鑑賞」「創作体験」などを行っている。
- ・屋外の活動として、彫刻探検や彫刻のスケッチも実施している。



～学校教育との連携～ スクールプログラム

- ・ 山梨県立美術館から一番近い新田小学校とは、年間を通じて全学年の美術館訪問を実施している。6年生は1月29日に当館でのギャラリートークを実施した。
- ・ WEB会議システムで学校と美術館をつなぐ方法も学校との連携の一つの選択肢となっているが、実際に学校に赴く出前授業も復調傾向にある。校外学習の事前学習のあり方としてニーズがあり、学校現場の要望に応じて実施している。



新田小6年 ギャラリートーク



塩山高校 出前授業

～学校教育との連携～

職場体験・インターンシップ

- ・ キャリア教育の一環として、様々な事業所で職業について体験的に学ぶもの。
- ・ 令和7年度は8月1日と2日に実施し、14名の中学生・高校生が体験した。

「教師のための鑑賞研究会」

- ・ 学校の教職員のために、特別展ごとに「鑑賞研究会」を実施。
- ・ 学校教育と美術館教育との連携。



教師のための鑑賞研究会

教員研修

- ・ 山梨県総合教員センターとの共同開催により学校の先生方の研修も実施。当館での実施と総合教育センターにて初任者研修を行った。
- ・ 幼児教育研修、初任者研修の講義を行った。

～キッズ・プログラム～

造形広場／創作教室

〔造形広場〕

- ・造形教育研究者、元・山梨学院短期大学 保育科教授伊藤美輝先生に講師をお願いし、毎月1回実施。
- ・幼児を含め、どなたでも参加できるプログラム。
- ・R6年度同様、R7年度も制限を行うことなく参加者を受け入れた。

〔創作教室〕

- ・本年度は、新春スペシャルワークショップとして、ミレー作品の模写をする「ミレーを描く会」を1月3日に行った。



特別展関連ワークショップ

- ・特別展をより楽しく学ぶためのプログラムとして、どなたでも参加できる内容で実施している。

- ・「皇室の美と山梨」では、「たんけん！ はっけん！ 日本美術」(5月25日)、「ポップ・アート」では「シルクスクリーンでオリジナルトートバックを作ろう！」(8月10日)、「日本画」の挑戦者たち それぞれの葛藤と探求」では「日本画の岩絵具・つぶつぶの感覚を楽しもう」(1月11日)を実施。



美術体験・実技講座

- ・本年度は版画(銅版画、木版画)、油彩画、日本画。
- ・「オープンアトリエ」として、絵画や版画を制作する場所を提供。



わかば講座(旧障がい者のためのワークショップ)

- ・障がいのある方を対象に行うワークショップを実施。
- ・当館の教育普及の大きな柱として、あらゆる方々が、美術に親しんでもらえるような活動を行っている。みんなでつくる美術館(みなび)との連携ワークショップで、作品は【みなび展】で展示した。

美術体験・実技講座

講座名	講師	講師指導日
はじめての銅版画	作家：小林次男氏	5月11日(日)
銅版画	作家：小林次男氏	6月22日(日)、28日(土)、29日(日)、7月6日(日)
はじめての凹版木版画	作家：河内成幸氏	9月7日(日)
木版画	作家：河内成幸氏	9月21日(日)、27日(土)、28日(日)、10月5日(日)
わかば講座	作家：矢崎育子氏	10月9日(木)「パペットの友達をつくろう!～みて、つくって、うごかそう～」
日本画	作家：目黒祥元氏	11月30日(日)、12月7日(日)、13日(土)、14日(日)
油彩画	作家：赤池宏己氏	2026年2月8日(日)、15日(日)、22日(日)、3月1日(日)
オープンアトリエ		①版画 7月8日(火)～20日(日) ②版画 10月7日(火)～19日(日) ③絵画 2026年3月3日(火)～22日(日)

みんなで作る美術館(みなび)

- ・大人も子どもも、障がいのある人もない人も、アーティストも一般の人 も誰もが自由に参加でき、ワークショップで楽しみながら作品をつくり上げ、年度末の展覧会で作品を発表する事業。
- ・令和5年度から「やまなしをつくろう」をテーマに開催しており、令和7年度は3年目の最終年として、山梨という地域に生きる人、人と人とのつながりに着目したワークショップを開催、参加者が多彩な作品を制作した。



7月27日「だいだらぼっちを描こう！」



9月13日「今日だけは出会ったことの無い誰かに」

みんなで作る美術館(みなび)

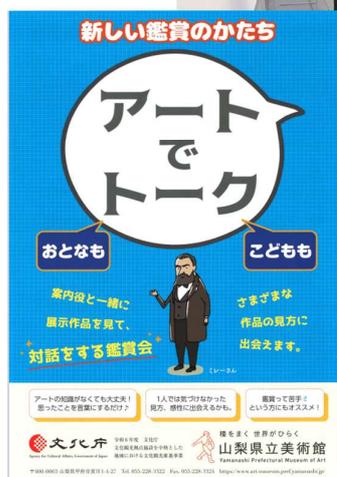
- ・令和8年1月22日(木)～2月1日(日)の会期で「みなび展」を開催、ワークショップで制作された作品を展示した(県民ギャラリー)。
- ・会期中に、甲州弁紙芝居の読み聞かせ、パペットのステージなどのイベントも開催した。



みなび展 会場風景

対話型鑑賞プログラム 「アートでトーク」

- ・案内役と一緒に展示作品を見て、対話をするプログラム。
- ・作品を見て感じたことを言葉にすることで自分の考えを整理したり、自分とはちがう見方に触れたりして新しい作品鑑賞の世界を広げることができる。
- ・案内役(ファシリテーター)は当館協力員(対話型部門)が務める。



- ・事前申込制(当日申込みも可)で月に1~2回実施日を設けている。
- ・1回(1日)あたり5名1組を4組まで受け入れている。5歳以上の子どもを含めた家族での参加も可能な回も設け、幅広い年齢層を対象としている。
- ・事業の周知はチラシのほか、HPやSNS等で宣伝しており、県外からの参加者も少しずつ増えてきている。

「ミュージアム・シアター」



- ・毎月1回、芸術や開催中の展覧会に関する映画を講堂にて上映
- ・映像という媒体を通して芸術の魅力を伝える、特別展をより多角的に楽しむ、また映画という芸術形態自体を楽しむことが目的
- ・受け入れ人数は、令和5年7月より先着70名、現在は80名としている。

最近の例

- 11月30日(土) 「見えるもの、その先に ヒルマ・アフ・クリントの世界」
- 12月21日(土) 「ミステリアス・ピカソー天才の秘密」
- 1月25日(土) 「フェルナンド・ボテロ 豊満な人生」

今後の予定

- 2月22日(土) 「目の見えない白鳥さん、アートを見に行く」
- 3月22日(土) 「ヒッチコック／トリュフォー」

山梨県立美術館協力会

〔美術館協力員(ボランティアスタッフ)〕

- ・美術館利用者の便宜を図り、美術館運営促進、地域文化の向上に資することを目的に設置。
- ・隔年募集。第24期165名(のべ201名)

〔活動内容〕

- ①案内 案内カウンターで総合案内
- ②解説 コレクション展示室で作品解説
- ③対話 対話型鑑賞会ファシリテーター役
- ④図書 美術館所有の図書、図録等の整理
- ⑤情報 映画会サポート、ポスター貼替え
- ⑥実技 美術実技講座の参加者サポート
- ⑦ワークショップ 創作活動等の者サポート
- ⑧バラ園 芸術の森公園内バラ園の剪定作業

〔ミュージアムショップ〕

- ・グッズ製造・販売
- ・協力会活動費支援、作品寄贈



令和7年度 下半期

美術館協議会

山梨県立美術館・文学館・芸術の森公園指定管理者
芸術の森みらいデザイン

令和8年2月20日(金)

◆目次

- ・ 令和7年度の指定管理事業
広報活動／事業／安全・安心な施設の維持管理／サービス向上
- ・ 令和8年度の指定管理事業

1. 広報活動(令和7年度 8月-1月)

美術館観覧者実績

	年度目標	4-1月実績	目標比
コレクション展	80,000	68,373	85%
特別展	80,000	88,644	111%
観覧者数合計	160,000	157,017	98%

展覧会名	会期	年度目標	年度実績	目標比
ポップ・アート展	7/12(土)~8/24(日)	18,000	16,148	90%
生誕100年 山下清展	9/20(土)~11/24(月)	35,000	51,996	149%
「日本画」の挑戦者たち	12/6(土)~2/1(日)	9,000	7,368	82%

※目標値は県予算の数字をもとに、館内の会議で決定

生誕100年 山下清展－百年目の大回想

3万人超えの展覧会は
6年ぶり!



- ・東京展に次ぐ観覧者数を達成(2022年より全国15館を巡回)
⇒1万人ごとに達成セレモニーを実施し、会期中にも絶えず話題づくりを行った
- ・県外のうち静岡県からの観覧者を20%まで伸ばすことに成功(参考:R6年度12%)
⇒新規顧客獲得のため巡回のない静岡県を狙ってJR東海へ営業。管轄の36駅へのポスター掲示、東海道本線の250車両に中吊り広告を実施。

ポップ・アート 時代を変えた4人

・開幕前からSNSでカウントダウン投稿を実施し期待度を高めた。
開幕後は、動画などで作品のインパクトを活かした投稿を実施。



・その結果20~50代の観覧者が56%!(R6年度の年間実績は46%)
現代アートに関心のある世代に響く広報ができた。

「日本画」の挑戦者たち



- ・日曜美術館アートシーン(Eテレ)など美術系媒体を中心に40媒体に掲載(テレビ2件、新聞10件、雑誌4件、ウェブ24件)
- ・インスタグラムの日本画展関連投稿インタラクション率 平均8%
※興味関心の指標:投稿を見た人の反応率 一般的に平均2~5%と言われている
- ・作家名を打ち出したチラシやリリース、SNS投稿で、展覧会の内容をイメージしやすくする工夫に効果があった。

3

1. 広報活動(令和7年度 8月-1月)

New SPS本社マーケティングサポート部と連携! ミレー広報

目的:山梨県美の誇る“ミレー”の魅力の発信を強化し、「潜在顧客」を獲得することで来館者増につなげる。
目標:11月3日から始まる「#3のつく日はミレーの日(撮影可能日)」企画の情報拡散・浸透

戦略的なプレスリリースの作成&配信

特に首都圏を中心としたメディアでの露出を増やすためのプレスリリースの作成やメディアリストの選定など

テレビ	WEB	雑誌
山梨放送	甲府経済新聞	ハルメク(ツアー)
新聞	ユーホリック	日経おとなのOFF(広告)
朝日新聞全国版	アートアジェンダ	
山梨日日新聞	スフマート	
読売新聞	シティリビング	
計11件		



(株)ユーキャンの会員向け情報誌「悠々快適」(4月発行予定)で、ミレーとワインをめぐる企画掲載

- ・発行部数:約150,000部
- ・5月から6月に、会員向け日帰りツアーも催行予定

このほか、「ミレーの美術館」としての取材も増えつつある。(山梨日日新聞、読売新聞、アートアジェンダ(web)等)

SNSの発信強化

発信のタイミングや、拡散につながりやすい画像の使い方など、より効果的な配信計画や投稿画像の作成・ディレクション

期間:10/9~11/5集計、前月比
ミレーの日告知開始以降、全指標において向上。
フォロワー外へのリーチも伸長し、認知拡大していると言える。

- ・閲覧数 12.2万(32%UP)
- ・リーチ数 5,678(16%UP)
- ・インタラクション(反応)率 1,639(105%UP)
- ・ハッシュタグ投稿 22件



投稿キャンペーンオリジナルステッカー



投稿画像

4

2.事業報告(令和7年度 8月-1月)

出張！県立美術館・文学館(アウトリーチ)

芥川龍之介作の「河童」や、ミレー作品をモチーフにしたオリジナルのサコッシュやペーパーバッグ、缶バッジづくりを行うワークショップ

- ・8月3日(日) ラザウォーク甲斐双葉店(甲斐市)
- ・10月5日(日) 富士河口湖まちフェス(富士河口湖町)

目的:

- ・県内在住者を対象とした展覧会広報や来館のきっかけづくり
- ・館への関心度を高める機会の創出
- ・来館頻度の低い市町村からの利用促進。

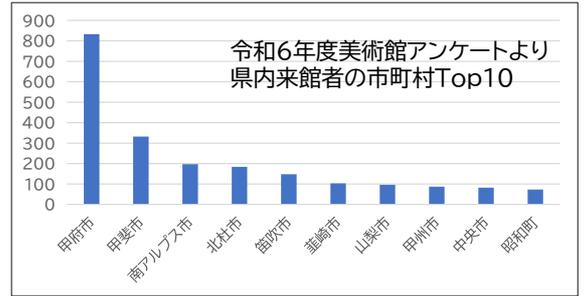
成果:

8月3日(日) ラザウォーク甲斐双葉店 534人参加

- ・新聞掲載やテレビ取材あり。メディアを通して施設をアピール
- ・クライアントの満足度も高く、関係性も深化。

10月5日(日) 富士河口湖まちフェス 初出店！464人参加

- ・地域住民の方とコミュニケーションをとりながら文学館・美術館の存在をアピールできた。
- ・多くの方が展覧会に興味を持ち、文学や美術への関心の高さが伺える。今後の来館が期待できる感触を実感。



河口湖まちフェスの様子

5

2.事業報告(令和7年度 8月-1月)

ミュゼマルシェ2025(12/20・21)

コンセプト:山梨の文化の発信地である山梨県立美術館&文学館で、山梨のクリエイター文化を発信するイベント

目的:県の農産物、地場産品を扱うことで地域経済の活性化の一助を担い、県民のみならず観光客に県特産品を知ってもらう場を設けることで、地域の活性化に繋げる。



来場者数

目標	実績	達成率	内訳
10,000	5,500	55%	12/20:2,300人、12/21:3,200人

雨にも関わらず、5,500人が来場！

各日100店舗が出店

今年はクリスマスがテーマ。県内の飲食店や雑貨店、体験型ワークショップなどが出店。

地場産業の出店を誘致

昨年から設けている地場産品を紹介するエリアでは、あけぼの大豆を使った食品や県産木材の器の販売、西嶋和紙の紙漉きワークショップなどの出店を誘致。マルシェを訪れる県内外の方が、山梨の魅力を再発見できる機会とした。



美術館・文学館の周遊を目的としたスタンプラリーを実施 New



台紙配布: 494枚
コンプリート者数: 32人

マルシェ来場者へ向けた展覧会PR施策は今後も継続する。

6

3.安全・安心な施設の維持管理／サービス向上

展示室に消火用タンク設置(9月)

目的:主に展示室内における、火災発生時の人と作品の安全と安心確保のため

期待される効果

- ・水を使つての消火となるため、作品への影響を最小限にとどめることができる。
- ・近年多発するモバイルバッテリー出火事故等にも即座に対応可能。
- ・有事の際、スムーズに対応できるよう、スタッフ研修で使用方法を確認。



展示室内の様子

ミュージアムアテンダント研修(12月)

目的:繁忙期のお客様対応を振り返ることによるサービスの向上

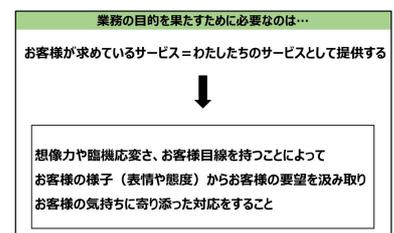
内容

- ・はじめに私たちの業務やその目的を全員で再確認した上で、実際に行ったお客様対応についてのディスカッションを行った。
- ・特に難しかった対応については今後の業務に活かせるよう全員で原因や解決策を考えた。

今後も研修を通して、お客様の鑑賞環境や作品の安全を守りながら、同時にお客様の満足度を高められるサービスを行っていただけるよう、想像力やお客様目線を大切にされた接遇を目指していく。



研修の様子



研修資料の一部

7

令和8年度の指定管理事業

令和8年度も、今期の行動指針に沿った取り組みをおこないます。

行動指針

1. パブリックスペースを活用し

県民にとってのサードプレイス(居心地の良い場)をつくります

2. 潜在顧客へ向けた広報活動により美術館・文学館の利用者を新規獲得します

3. 芸術の森をハブとし地域全体に回遊性を生むことで地域力の向上に貢献します

4. 関わる全ての人と作品にとって安全・安心な運営を行います

8